

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2671200109
法人名	株式会社 ケアトラスト
事業所名	グループホーム メイプルリーフ
所在地	〒611-0002 京都府宇治市木幡南山74-7 (電話) 0774-32-5053

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年9月8日	評価確定日	平成21年10月7日

## 【情報提供票より】(平成 21 年 7 月 1 日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	8 人	常勤 3 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 5.7 人	

## (2) 建物概要

建物構造	木造枠組壁工法 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,100 円	

## (4) 利用者の概要( 7 月 1 日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.3 歳	最低 74 歳	最高 91 歳		

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	武田総合病院、宇治武田病院、辰巳診療所、武田歯科医院
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

宇治の住宅街に位置し、緑豊かで静かな環境の中にある6人制で家庭的なグループホームです。庭にベンチやパラソルを配し、季節にはホームを開放し、近隣の方を招いて花見をしたり、夏祭りを催しています。理念のもとに毎年の目標を掲げ、今年度は地域との関わりを重視し、ホームがより地域に溶け込み、その中で利用者が楽しく暮らせるようにと、職員は地域に働きかけ交流を図っています。また職員の利用者に対する言葉遣いも丁寧で、職員同士の仲もよく、助け合いながらケアにあたっています。法人の教育体制も整っており、定期的に研修等に参加する機会を確保し、スキルアップを図っています。小規模であることで家族の来訪も多く、ご近所に遊びに来たような温かい雰囲気のホームです。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の改善点は改善計画シートを作成し、アセスメントを職員全員に利用者全員の物を作成してもらい、思いの把握に努めるなど、出来ることから取り組まれています。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価票は、常勤職員が相談して案とし、その後全員に見てもらい、意見を求め集約したものです。職員は日々を振り返る良い機会と捉えています。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2カ月ごとに、家族、地域住民、地域包括支援センター職員、民生委員、法人代表、管理者等が参加して開催されています。会議では、スライドショーを使い、ホームの生活を報告したり、認知症の研修や看とりについての意見交換、運営推進会議の在り方等について話し合われています。会議参加者と利用者が一緒に歌を歌うなどして交流しています。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時や電話にて直接家族の苦情や要望を聞いています。また行事の際に家族に呼びかけ、ホームに来てもらう機会を多く持ち、家族同士が交流する時間を確保する等の取り組みがなされています。出された苦情や要望は職員間で検討し、結果は家族にも報告されています。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しています。日頃から散歩や買い物の際には、気軽に声をかけ合い、近くの方が立ち寄ってくれることもあります。近隣保育園の行事に参加し園児と交流したり、自治会の防災訓練にも利用者と共に参加しています。またホーム主催の花見や夏祭りに地域の方を招待したり、地域のボランティアを受け入れるなど、地域との関係作りに積極的に取り組んでいます。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に法人代表が作り上げた理念である「支え合い・自立・開放・前向き」を事業所の理念とし、地域密着型サービスとして、地域に開放されたホームを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はリビングや事務所に掲示され、理念のもと、ホームでは毎年独自の目標を立て実践にあたっている。新人職員の入職時には最初に理念について説明し、またホーム会議においても確認し合い、常に念頭に置いてケアにあたるよう理念の浸透を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。日頃から散歩や買い物の際には、気軽に声をかけ合い、近くの人が立ち寄ってくれることもある。近隣保育園の行事に参加し園児と交流したり、自治会の防災訓練にも利用者と共に参加している。またホーム主催の花見や夏祭りに地域の方を招待したり、地域のボランティアを受け入れるなど、地域との関係作りに積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価票は、常勤職員が相談して案とし、その後全員に見てもらい、意見を求め集約したものである。また昨年の改善点は改善計画シートを作成し、アセスメントを職員全員に利用者全員の物を作成してもらい、思いの把握に努めるなど、出来ることから取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月ごとに、家族、地域住民、地域包括支援センター職員、民生委員、法人代表、管理者等が参加して開催されている。会議では、スライドショーを使い、ホームの生活を報告したり、認知症の研修や看とりについての意見交換、運営推進会議の在り方等について話し合われている。また会議参加者と利用者が一緒に歌を歌うなどして交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は申請以外でも、何かあるごとに市担当者を訪れ、相談ののってもらう等、話をする機会を確保している。また毎月、介護相談員を受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、利用者の写真入りの通信を発行し、個々の様子や健康状態が書かれた手紙と共に、家族に郵送している。家族の来訪時にも様子を伝えている。また立て替え金は請求書を送る際に、収支報告書と領収書を同封し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や電話にて直接家族の苦情や要望を聞いている。また行事の際に家族に呼びかけ、ホームに来てもらう機会を多く持ち、家族同士が交流する時間を確保する等の取り組みがなされている。出された苦情や要望は職員間で検討し、結果は家族にも報告されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度は離職者もなく、職員同士が助け合いながら勤務にあたっている。管理者は、職員の意見が偏らず思い違い等が起こらないためにも、ホーム会議には全員が参加できるよう配慮している。また運営者が職員と面接し、希望や意見を聞く機会を確保している。新しい職員には、ベテラン職員が利用者との間に入り、フォローしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へは管理者が指名して参加してもらっている。またリーダー、常勤職員は3ヶ月毎に法人内研修を行い、別にセクハラ委員会を設け担当職員で勉強会を行っている。研修後は報告書を記載し、資料と共に閲覧用として残している。ホーム会議等で報告し、全職員が会議録を確認する等情報の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都府北部地区を中心としたグループホーム連絡会に参加し、交流を図っている。また法人内の他施設の職員と意見交換する機会も設けている。職員は他のホームの職員と交換研修を行い、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームでは利用前に本人や家族に見学をお願いし、他の利用者や職員とお茶を飲んで過ごしてもらい、雰囲気味わってもらうなどの配慮をしている。また職員が自宅や入院先を訪ねて情報を得たりしている。入居後は本人本位を心がけ、家族の協力も得ながら徐々に馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者日々コミュニケーションを取る中で、料理や裁縫の仕方、花の生け方等、多くのことを学んでいる。職員のみならず、利用者同士も互いを補い合い、職員も含めて皆で助け合いながら生活をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で、利用者の思いを聞いたり、なかなか思いを口に出さない利用者には、いくつかの選択肢の中から選んでもらえるよう支援している。ホームでは1冊の日記帳を作り、利用者自身が日々の思いをさまざまに書き込み、それを職員は思いの把握に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	まず利用者や家族の希望を聞き、利用者全員のアセスメントを全職員に記載してもらい、それらをもとに計画作成担当者がケアプランを立てている。ケアプランは家族に見せ、納得が得られればサインを頂いている。場合によっては、医師や訪問看護師に意見を聞きケアプランに反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは毎月のホーム会議の中で検討し、モニタリングを行なっている。また6か月ごとに評価、見直し更新している。見直し前には職員全員が再アセスメントを行い、新たなケアプランに反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員は家族が行けない時の通院介助や行きつけの美容院や嗜好品の買い物等に同行している。また以前住んでいた家を見に行ったり、利用者の家族が経営している喫茶店に出かけたりと、利用者の思いを大切にした柔軟な支援を行なっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に利用者や家族の希望を聞き、かかりつけ医を決めており、以前のかかりつけ医を継続されている利用者もいる。月2回のホーム医の往診時には、利用者全員が診てもらっている。緊急時にはホーム医に連絡し指示を受け、訪問看護の協力も得ながら健康管理を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは医療連携体制における指針を作成し、契約時に利用者、家族に説明し、同意を得ている。これまでに看とりの経験もあり、希望があれば看とりを行う方針で、職員間で方針を共有している。時期が来れば、家族、運営者、主治医、管理者等で具体的な連携について話し合い、利用者にとって最善の方法を検討している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対しては常に敬語で話しかけ、利用者の尊厳を守る配慮が見られる。またホーム会議でも確認し合い、穏やかな声かけを心がけるよう伝えている。個人のファイルは、事務所の棚に保管し、他の人の目に触れないようにしている。また名前はイニシャル表記にしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等、基本的な時間はあるが、無理強いすることなく、利用者のペースに合わすよう配慮している。また、じっくりと話を聞くようにしたり、散歩や買い物も利用者が行きたいときにいけるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	担当職員は以前のメニューを参考に重ならないように配慮し、利用者に希望を聞きながら、冷蔵庫を見てメニューを決めている。週に2,3回は利用者と共に買い出しに出かけ、調理や盛り付け、下膳、洗い物等、一緒に行っている。食事は一緒に同じテーブルで楽しく頂いている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回入浴日を設けている。午前から夕方の好きな時間にゆっくり入浴できるよう支援している。それ以外の日は季節や体調に考慮し、シャワーや足浴で対応している。また決して無理強いすることなく、声かけのタイミングを図り入浴に繋げている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分の事は自分でと思っている利用者も多く、掃除は全員で行なっている。利用者はそれぞれ新聞取りやメニュー書き、洗濯等出来ることを役割とし、利用者同士助け合いながら行なっている。踊り好きな利用者がその場を盛り上げたり、花を活けてもらい季節感を味わったりと、みんなで楽しみを共有している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所にダチョウや猫を飼っている家があり、利用者は前を通って散歩に出かけることを楽しみにしている。職員は今日はここまでとその都度目標を決めてから歩いてもらっている。またドライブや買い物に出かけたり、玄関先の広いベンチを利用して日光浴し、気分転換を図っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解し、日中については施錠しないケアを実践し、家族にも伝えている。利用者が外に出たそうにしている時はすぐに応じ、一緒に散歩等に出かけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、昼間を想定して避難訓練を開催し、1回は消防署の指導のもと消火訓練を行なっている。運営推進会議のメンバーである近隣の方から、緊急時の一時避難場所として自宅の提供の申し出もある。職員は定期的に救命講習を受講し、緊急時に備えているが、近隣に協力のための声かけをするには至っていない。	○	夜間想定での訓練の実施を検討されており、その実現もさることながら、運営推進会議等で地域に呼びかけ、避難訓練の際に近隣の方々にも参加頂ける体制づくりが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の献立を利用者にノートに記入してもらい、職員が栄養バランスを確認している。糖尿病の利用者には、職員が病院に同行し栄養指導を受け、それに基づいた食事を提供している。また体調や状態に応じて、粥にしたり食材を刻んだり、ミキサーにかけるなどの支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に皆が座れる長いベンチを置いたり、庭に椅子を置くなどして、寛ぎの場所を確保し、お茶を楽しんだり、季節を感じる事が出来る空間となっている。日中ほとんどの利用者が過ごすリビングは明るく、ソファや椅子等を配置し、それぞれがお気に入りの場所で過ごされている。日が入りすぎないようにすだれをかけた、日よけの棚を作るなどの工夫が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口には、各自で風通しを良くするため、ドアを開けて暖簾をかけ中が見えないように工夫をしている。利用者は居室に、自宅よりベッドや家具、仏壇、机や椅子、裁縫道具、家族の写真等馴染みの品を持参され、居心地良く過ごされている。希望があれば畳を入れることも可能である。		